

音声ガイドのナレーションは南沙良さんに決定！ 展覧会オリジナルグッズもご紹介！

特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」

会期／2023年3月4日（土）～5月14日（日） 会場／兵庫県立美術館

兵庫県立美術館にて、2023年3月4日(土)～5月14日(日)の期間、特別展「恐竜図鑑—失われた世界の想像／創造」を開催いたします。

本展は、恐竜が“発見”された19世紀の奇妙な復元図から、20世紀にチャールズ・R・ナイトやズデニェク・ブリアンらが躍動する恐竜の姿を生き生きと描き出した絵画作品、漫画・玩具などサブカルチャーの分野やファインアートの領域に登場したイメージ、さらには近年の研究に基づく現代のパレオアート（古生物美術）まで、恐竜をはじめとする古生物のイメージの歴史を概観し、人々の想像力を絶えず刺激し続ける太古の世界の住人たちを紹介します。



[1]

[NEW] 展覧会ナビゲーター／音声ガイドのナレーションは女優・南沙良さん！

本展覧会では展覧会ナビゲーター・南沙良さんによる音声ガイドを無料で楽しみいただけます。作品の背景に迫りながら、古生物学者とパレオアーティストたちによる200年の足跡を南沙良さんとともにたどります。

映画やドラマ、CMなどで活躍中の南沙良さんですが、展覧会の音声ガイドのナレーションを担当するのは初めて。都内で行われた収録では、「なかなか言いなれない言葉が多かったので苦労した面もありますが、作品の解説では自分自身も発見が多く、楽しんで収録できました」と話しました。恐竜絵画の名品・珍品が世界各国から集結する本展。自身も恐竜好きとして知られる南さんは「絵画だからこそ皮膚の質感などがしっかりと表現されていて、恐竜の姿を想像しやすい」と展覧会を楽しみにしてくれていました。



【コメント】恐竜ファンとして、イグアノドンなど、200年で恐竜像が変わっていく様子がとても興味深く楽しみな展覧会です。精密なものから、現代のポップな作品まで、さまざまなタイプの恐竜絵画が揃っているので、ぜひ自分のお気に入りの一作を見つけてみてください。自分自身もワクワクした気持ちで収録した音声ガイド。みなさまも、ぜひワクワクしながら聞いていただければうれしいです。



南沙良(みなみ・さら)
生年月日:2002年6月11日
出身:東京都

プロフィール:

映画『幼な子われらに生まれ』(2017)で女優デビュー。初主演映画『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』(2018)で、報知映画賞、ブルーリボン賞ほか、数々の映画賞を受賞し、その演技力が高く評価される。その他、映画『居眠り磐音』、『もみの家』、ドラマ『うつ病九段』(BSプレミアム)、『六畳間のピアノマン』(NHK)、映画『太陽は動かない』、Netflix映画『彼女』、日曜劇場『ドラゴン桜』(TBSテレビ系)など、出演作多数。2022年は映画『女子高生に殺されたい』、山田孝之さんが監督を務め、南が主演を務める映画『沙良ちゃんの休日』、主演映画『この子は邪悪』、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』(NHK)などに出演。

現在放送中の1月期連続ドラマ『女神の教室〜リーガル青春白書〜』(フジテレビ系)へレギュラー出演中、その他、2023年3月30日よりNetflixで全世界独占配信予定の『君に届け』での主演、2023年3月31日公開の『ダンジョンズ&ドラゴンズ』では初の吹き替えに挑戦。

Instagram:lespros_sara00 Twitter:lespros_sara

※音声ガイドはご自身のスマートフォンから会場内のQRコードにアクセスして楽しみいただけます。最大30分ほどのガイドとなります
※本サービスはダウンロード型アプリではございません
※お手持ちのスマートフォンの世代や契約状況・通信、バッテリー残量などによってはご利用いただけない場合がございます
※無料サービスにつき、ご利用いただけなかった場合の入場料の返金など、一切の責任を負いかねますので予めご了承ください

[NEW] 展覧会オリジナルグッズ ※画像はイメージです

■フランスの大人気絵本「リサとガスパール」とコラボした、本展限定のキュートなグッズを販売予定です。



キャンバスアート（各税込み ¥ 3,850）

ポーチ（税込み ¥ 1,980）

©2023 Anne Gutman & Georg Hallensleben / Hachette Livre

■最初期に発見された恐竜、「イグアノドン」の復元の過程をモチーフにした本展オリジナルのキャラクターグッズをご用意。



Tシャツ

チョコランチ（税込み ¥ 1,080）

アクリルキーホルダー（税込み ¥ 990）

キッズ110・130サイズ/バナナ・アッシュグレー（各税込み ¥ 3,000）

大人用S、M、Lサイズ/アッシュグレー（各税込み ¥ 3,500）

3月3日(金) 記者内覧会を予定しています。

記者受付 13:30～

受付場所 兵庫県立美術館 1階ホワイエ

[14:00～14:30 記者説明会] 挨拶：兵庫県立美術館 館長 蓑豊
概要解説：兵庫県立美術館 学芸員 岡本弘毅

[14:30～16:00 展覧会場] 自由内覧会

★15:30～15:45 特別ゲスト・恐竜くん 囲み取材

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、変更になる場合があります。

※マスクの着用をお願いいたします。

ご取材にお越しいただける場合は、**3月2日(木) 12:00**までにお申込フォームまたは右記コードよりお送りください。

【ご取材お申込みフォーム】

<https://forms.gle/McUySjts3S35FKq3A>



各章の見どころ

- 【見どころ①】 君たちは誰？初期の奇妙な復元画
- 【見どころ②】 ナイト vs ブリアン！パレオアートの2大巨匠が夢の競演
- 【見どころ③】 書籍、玩具からアートまで、日本に溢れた恐竜たち
- 【見どころ④】 現代の恐竜画の旗手たちが集結

【見どころ①】 君たちは誰？初期の奇妙な復元画

本展の冒頭を飾るのは、19世紀の恐竜“発見”から間もない時期に描かれた、パレオアート黎明期の作品群です。

地質学者ヘンリー・デ・ラ・ビーチの原画による「ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）」は、英国の女性化石採集者、メアリー・アニングの功績をたたえるために制作された版画で、古生物の生態を復元した史上初の絵画のひとつとされています。魚竜イクチオサウルスが首長竜プレシオサウルスを捕食しているさまが描かれています。本展では、デ・ラ・ビーチの原画に基づくジョージ・シャープの版画に加え、これを拡大したロバート・ファレンによる油彩画を出品します。

また、ジョン・マーティンによる「イグアノンの国」は、イグアノンの化石を発掘し、“恐竜を発見した男”として知られるギデオン・マンテルの依頼により描かれた作品で、油彩画をもとにした版画はマンテルの『地質学の驚異』の口絵を飾りました。聖書や神話を題材とした作品で人気を博した当時の有名画家・マーティンが描いた太古の世界は、多くの人々に古代への関心をもたらしました。イグアノンだけでなく、それを取り巻く風景もロマンティックに描き出されています。

19世紀の復元画は、魚食のイクチオサウルスが巨大な首長竜を食べているなど、現代の我々から見ると奇妙に映りますが、歴史的価値とともに、その奇妙さもまた魅力です。限られた情報のもと、想像をはばかせて太古の世界を描き出した初期のアーティストたち。彼らのイマジネーション豊かな作品の数々をご覧ください。

【2】



ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》
1850年頃 油彩・カンヴァス 190x268cm セジウィック地球科学博物館、ケンブリッジ

© 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission

【3】

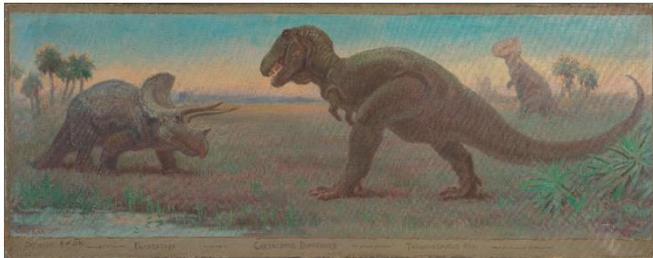


ジョン・マーティン《イグアノンの国》1837年 水彩・紙 30.2x42.6cm
ニュージーランド国立博物館・パバ・トンガレウ、ウエリントン
Gift of Mrs Mantell-Harding, 1961. Te Papa (1992-0035-1784)

【見どころ②】 ナイト vs ブリアン！パレオアートの2大巨匠が夢の競演

チャールズ・R・ナイトは、19世紀末から20世紀前半にアメリカで活躍したパレオアートの歴史上最大の巨匠です。もともと野生動物画家だったナイトは、生物学的知見に基づき、恐竜をいきいきとした姿で描き現代に蘇らせました。彼の作品は、アメリカ自然史博物館やフィールド博物館で使用されたほか、映画「ロスト・ワールド」（1925年）や「キング・コング」（1933年）などにも影響を与えました。ティラノサウルスとトリケラトプスの対決を描いた「白亜紀—モンタナ」や恐竜を躍動感あふれる姿でとらえた「ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）」は恐竜画における記念碑的イメージです。

【4】



チャールズ・R・ナイト《白亜紀—モンタナ》1928年 油彩・カンヴァス 38.1x96.5cm
プリンストン大学

Trustees of Princeton University / Image courtesy of the Princeton University Art Museum

【5】



チャールズ・R・ナイト《ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）》1897年
グアッシュ・厚紙 40x58cm アメリカ自然史博物館、ニューヨーク

Image #100205624, American Museum of Natural History Library

一方、ナイトより少し後の世代の画家ズデニェク・ブリアンは、20世紀中盤から後半にかけてチェコスロバキア（現チェコ共和国）で活動しました。当時の化石発掘の中心地であったアメリカから遠く離れた東欧圏は、直接化石を研究できる機会が限られていました。その環境にありながら、ヨーロッパ美術のリアリズムの伝統を踏まえた彼の作品は、強い説得力を持つものとして国際的に高く評価されました。また、本展では、この二大巨匠に加え、イギリスで活躍したイラストレーター、ニーヴ・パーカーの有名な恐竜画も展示します。

彼らの作品は、日本の図鑑などにも模写され、恐竜イメージの普及に大きな影響を与えました。かつての少年少女が胸おどらせ夢中で読んだ恐竜図鑑—そこに描かれた憧れの恐竜画のオリジナルが一堂に会します。

【6】



ズデニェク・ブリアン《イグアノンの地獄（第三紀の地獄）》1950年 油彩・カンヴァス 60x48cm
モラヴィア博物館、ブルノ

© Jiří Hochman - www.zdenekburian.com/ and Fornuft s.r.o. /
Moravské zemské muzeum, Brno

【7】



ニーヴ・パーカー《ヒブシロフォドン》1950年代 グアッシュ、インク・紙 52.7x37cm
ロンドン自然史博物館 © The Trustees of the Natural History Museum, London

【見どころ③】 書籍、玩具からアートまで、日本に溢れた恐竜たち

19世紀に欧米で成立した恐竜のイメージは、世紀末には日本にも移入されました。古生物学者・横山又次郎によって「恐竜」という訳語が作られて以来、科学雑誌や啓蒙書、子供向けの漫画や絵物語、ジュール・ヴェルヌの『地底旅行』（1864年）やコナン・ドイルの『失われた世界』（1912年）といった古典SFの翻訳など、恐竜を主題にした出版物が広く刊行されることになりました。これと並行して、恐竜の姿を模した玩具模型が多数制作され、今日では恐竜人気を支える中心的アイテムのひとつとなっています。

本展では、国内有数の恐竜アイテムの収集家である田村博氏のコレクションによって、明治から昭和にかけて我が国の文化史に登場する様々な恐竜を紹介します。また、恐竜をテーマにした数々の漫画を手掛けた所十三の代表作『DINO²（ディノ・ディノ）』の貴重な原画も展示します。

恐竜はまた、一般的な美術、いわゆるファインアートの領域でもしばしば象徴的なモチーフとして登場します。美術における恐竜のシンボリズムについて、福沢一郎や立石紘一など、いくつかの作例で紹介します。



福沢一郎《爬虫類はびこる》1974年
アクリル・カンヴァス 181.8×227.3cm
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館



立石紘一《アラモの Sphinxes》1966年
油彩・カンヴァス 130.3×162cm
東京都現代美術館

【見どころ④】 現代の恐竜画の旗手たちが集結

1960年代から70年代にかけて、「恐竜ルネッサンス」ともよばれる大きな変革もたらされます。「鈍重な生き物」から「活発に動く恒温動物」へと恐竜像が変化したことに伴い、恐竜画もさらなる進化を遂げ、新しい表現のアーティストが次々と登場します。

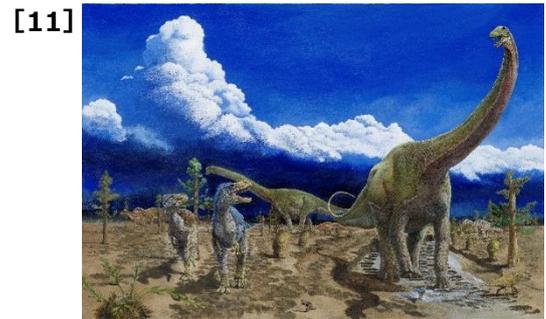
本展では、インディアナポリス子供博物館や福井県立恐竜博物館のコレクションから、ウィリアム・スタウト、ダグラス・ヘンダーソン、グレゴリー・ポールなど現代の恐竜画の旗手たちのバラエティ豊かな作品群が集結します。

ファンタジーアートの領域でもカルト的な人気を誇るアメリカのイラストレーター、ウィリアム・スタウト、パステルを駆使して太古の世界の光と影を精緻に表現するダグラス・ヘンダーソンなど、彼らの作品が原体験となっている恐竜ファンも多いのではないのでしょうか。

また、現代日本を代表するパレオアーティスト、小田隆の迫力ある作品も特集します。CGを用いずに圧倒的な迫真性を生み出す肉筆画は必見です。きら星のごとき現代スター作家たちの競演をお楽しみください。



ダグラス・ヘンダーソン《ティラノサウルス》1992年 パステル・紙 36.8×68.6cm
インディアナポリス子供博物館（ランゼンドルフ・コレクション）
Courtesy of the Children's Museum of Indianapolis © Douglas Henderson



小田隆《緑山層群産動物の生態環境復元画》2014年 アクリル・カンヴァス
115×60cm 丹波市立丹波電化石工房 ©小田隆/丹波市

関連イベント

【記念トークショー 描かれた恐竜たち（仮題）】

出演：倉谷滋氏（理化学研究所生命機能科学研究センター・チームリーダー）
徳川広和氏（本展企画協力者、古生物造形作家）

日時：3月19日（日）14：00～（約90分・13：30開場）

会場：ミュージアムホール

定員：110名（先着順、要観覧券、芸術の館友の会優先席あり）

【学芸員による解説会】

日時：3月11日（土）、4月22日（土）各日15：00～（約45分）

会場：レクチャールーム

定員：50名（先着順）

【こどものイベント】

詳細が決まり次第、兵庫県立美術館ホームページにてお知らせします。

問い合わせ先：こどものイベント係（TEL:078-262-0908）

同時開催の展覧会

【2023年コレクション展 I】

特集1「虚実のあわい」

会期：1月21日（土）～7月23日（日）

（※4月10日（月）～4月28日（金）は閉室し、一部展示替えを行います。）

特集2「中国明清の書画篆刻－梅舒適コレクションの精華－」

会期：1月21日（土）～4月9日（日）

【横尾忠則現代美術館 横尾忠則展 満満腹腹満腹】

会期：1月28日（土）～5月7日（日）

開催概要

展覧会名：特別展「恐竜図鑑－失われた世界の想像／創造」

会期：2023年3月4日（土）～5月14日（日）

開館時間：10：00～18：00（入場は17：30まで）

休館日：月曜日

会場：兵庫県立美術館

主催：兵庫県立美術館、産経新聞社、関西テレビ放送

協賛：DNP大日本印刷、公益財団法人伊藤文化財団

特別協力：公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部

企画協力：小田隆（画家・京都精華大学教授）／徳川広和（古生物造形作家・株式会社ACTOW代表）

田村博（ジャズピアニスト・恐竜グッズ収集家）／エリック・ビュフトー（古生物学者・フランス国立科学研究センター名誉研究部長）

制作協力：ウイステリアート

観覧料：

	当日	団体	前売
一般	2,000円	1,600円	1,800円
大学生	1,500円	1,200円	1,300円
高校生以下	無料	—	—
70歳以上	1,000円	800円	—
障がいのある方（一般）	500円	400円	—
障がいのある方（大学生）	350円	300円	—

※高校生以下無料 ※前売券の販売は2023年3月3日（金）まで

※団体は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は1か月前までにご連絡ください。

※障がい者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名は無料

※予約制ではありません。混雑時は人数制限を行いますのでお待ちいただく場合があります。

※一般以外の料金でご利用される方は証明書を当日ご提示ください。

※コレクション展は別途観覧料が必要です（本展とあわせて観覧される場合は割引があります）。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、会期等予定を変更する場合がございます。最新の情報は展覧会HP等をご確認ください。

お問合せ：兵庫県立美術館 078-262-1011

兵庫展公式HP：<https://www.ktv.jp/event/zukan/>

展覧会公式HP：<https://kyoryu-zukan.jp/>

展覧会公式Twitter：https://twitter.com/kyoryu_zukan (@kyoryu_zukan)

【主なチケット発売場所】

公式オンラインチケット、兵庫県美術館ミュージアムショップ（前売のみ）、イープラス、ローソンチケット【Lコード：52359】、チケットぴあ【Pコード：686-273】、セブンチケット【セブンコード：098-070】、CNプレイガイド ほか

【広報画像申込書】 特別展「恐竜図鑑 – 失われた世界の想像／創造」

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

【申込フォーム】 <https://forms.gle/b2qdeGXbZBRRBNFV6>

※入力難しい場合は、本書を広報事務局までお送りください。



【広報用画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期、会場、画像・クレジットは必ず記載してください。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミング、文字寄せなどの加工・改変はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

【広報画像・キャプション一覧】 ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	チラシビジュアル※クレジットなし
2□	ロバート・ファレン《ジュラ紀の海の生き物—ドゥリア・アンティキオル（太古のドーセット）》1850年頃 油彩・カンヴァス 190×268cm ケンブリッジ大学セジウィック地球科学博物館 © 2023. Sedgwick Museum of Earth Sciences, University of Cambridge. Reproduced with permission
3□	ジョン・マーティン《イグアノドンの国》1837年 水彩・紙 30.2×42.6cm ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ、ウエリントン Gift of Mrs Mantell-Harding, 1961. Te Papa (1992-0035-1784)
4□	チャールズ・R・ナイト《白亜紀—モンタナ》1928年 油彩・カンヴァス 38.1×96.5cm プリンストン大学 © Trustees of Princeton University / Image courtesy of the Princeton University Art Museum
5□	チャールズ・R・ナイト《ドリフトサウルス（飛び跳ねるラエラプス）》1897年 グアッシュ・厚紙 40×58cm アメリカ自然史博物館、ニューヨーク Image #100205624, American Museum of Natural History Library
6□	ズデネク・ブリアン《イグアノドン・ベルニサルテンシス》1950年 油彩・カンヴァス 60×48cm モラヴィア博物館、ブルノ © Jiří Hochman - www.zdenekburian.com/ and Fornuft s.r.o. / Moravské zemské muzeum, Brno
7□	ニーヴ・パーカー《ヒプシロフォドン》1950年代 グアッシュ、インク・紙 52.7×37cm ロンドン自然史博物館 © The Trustees of the Natural History Museum, London
8□	福沢一郎《爬虫類はびこる》1974年 アクリル・カンヴァス 181.8×227.3cm 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
9□	立石紘一《アラモのスフィンクス》1966年 油彩・カンヴァス 130.3×162cm 東京都現代美術館
10□	ダグラス・ヘンダーソン《ティラノサウルス》1992年 パステル・紙 36.8×68.6cm インディアナポリス子供博物館（ランツェンドルフ・コレクション） Courtesy of the Children's Museum of Indianapolis © Douglas Henderson
11□	小田隆《篠山層群産動物の生態環境復元画》2014年 アクリル・カンヴァス 115×160cm 丹波市立丹波竜化石工房 ©小田隆/丹波市

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 □WEBへの転載あり
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須	
お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

特別展「恐竜図鑑 – 失われた世界の想像／創造」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL / zukan-kobe@nenelaco.com TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル